



## 第6回 NCDA ウェビナー、2020年10月9日（金）22:00～23:00（日本時間） -SFT 三大学国際スポーツアカデミーのその先に

### 【趣旨文】

本学コーチデベロッパーアカデミー（NCDA）は、これまで6年半に渡りスポーツ庁委託事業として、スポーツ・フォー・トゥモロー事業の一環で「国際スポーツアカデミー」事業を行ってきました。「国際スポーツアカデミー」事業としては、本学アカデミーの他にも、つくば国際スポーツアカデミー（TIAS）と鹿屋体育大学国際スポーツアカデミー（NIFISA）がそれぞれ「国際スポーツ人材育成拠点の構築」を目的として活動を行ってきました。各アカデミーごとにそれぞれ専門とする分野がありますが、各アカデミーは人材育成の点で互いに連携して、これまでカンファレンスやワークショップやプログラムを共同で開催してきました。そうした連携によって各アカデミーの受講生たちの結びつきが強まった結果、自国に帰った後に協力して事業を展開した例も見られます。そこで今回のウェビナーでは、三大学国際スポーツアカデミーの修了生たちが、自国に戻った後に協力して開催したワークショップや現在展開している事業について、それぞれ事例を紹介してもらいます。ウェビナーに参加する皆様にもそうした事例を観ることで新たな視点や考え方を提供することができればと考えています。

### 【内容】

#### 導入

##### 【伊藤雅充教授】

2014年に始まったSFT三大学スポーツアカデミーは、スポーツ庁の委託事業として、今年度で7年目を迎えます。その7年間で、各アカデミーの受講生は、修了後に自分の活動地に戻り、さまざまなコラボレーションを行い、ワークショップやカンファレンスを開催してきました。そこで、今回のウェビナーではそれらについて報告してもらうことになりました。

また、こうしたウェビナーでさまざまなコラボレーションを紹介することで、他の修了生にとって参考になればと考えています。まずは、NCDAに受講生および講師として参加して、NIFISAにも講師として参加した経験を持つ、グレン・クンダリ氏にご自身の経験を語ってもらいましょう。

##### 【グレン・クンダリ】

今日はお招きいただき、ありがとうございます。現在は、コーチたちをサポートすることを目指した会社「コーチ+ (プラス)」を設立し、そこでリードコーチデベロッパーを務めています。専門種目はゴルフですが、10の競技スポーツに携わっています。

私のプレゼンでは、2つのアカデミーに関わった自分の経験を共有したいと思います。私はこれまでの数年間、2つのアカデミーのプログラムに携わることができました。私はこれまで4回ほどNCDAのプログラムに参加しましたが、今やその影響は世界規模に広がっていると感じています (NCDAの修了生の分布図を示す)。そして、3つのスポーツアカデミーがスポーツの世界を変えようとしている現実も知っています。また、私自身の経験を言えば、プログラムに参加することで、個人としても専門家としても成長することができたと感じています。そのなかでは、学んだ内容も重要ですが、それ以上にどのように一緒に学んだのか、どのように協力し合ったのか、どのように実践を行ったのか、どのように他の文化に敬意を払ったのか、といったことがよりいっそう重要になります。この情報があふれる2020年において、講義の内容はインターネットで簡単に調べることができますが、つながりといったものはそういうものではありません。そして、それはとても重要なものなのです。そこで、2つのアカデミーに参加した際に撮った写真を共有したいと思います。それを見れば、2つのアカデミープログラムの類似点がわかるかと思います。そうした写真には、日本文化体験やカラオケの写真なども含まれています。そうした機会が社会的な絆をより強固なものにしてくれるのです。そうしてできた絆が、修了後に自分の活動地に戻っても、連絡を取り合うことにつながっています。SFTの100カ国1000万人の人々にスポーツの喜びを届けるという目標は、世界中のさまざまな世界の人々を動かしていると言えるでしょう。今日はこのような機会をいただき、誠にありがとうございます。

[続いては、TIASの学生としてNCDAのコーチデベロッパープログラムに参加しているケオン・リチャードソン氏による取り組みの紹介]

#### 【ケオン・リチャードソン】

皆さんこんにちは。今日はウェビナーにお招きいただき、ありがとうございます。私は英国出身で、現在はTIASに学生として在籍しており、NCDAのプログラムにも参加しています。2019年9月よりTIASで学んでいますが、ブラインドフットボールでコーチデベロッパーを務めています。TIASでは面白い旅をしてきました。3ヶ月のインターンがありましたが、そのなかでジンバブエのコーチ育成やアスリート育成に関わり、それをよりよいものにしたいという想いがあります。ザンビアやボツワナなどでもプログラムに携わりました。また、ボツワナではブラインドフットボールの文化クリニックを開催したり、ニュージーランドではいくつかの盲学校を訪ねたりしました。その後でジンバブエに行き着いたのですが、そこでも盲の方々の特別支援学校を訪れ、そこでさまざまな出会いがあって、アフリカにおけるブラインドフットボールの問題など、そうした領域でのさらなる研究の機会を得ることができました。そこで私はレポートを書き、論文を執筆しました。ジンバブエにおけるケーススタディに関する論文が刊行されます。また、NCDAについて言えば、NCDAの第7期(2020-2021年)に参加していて、ジンバブエでのプロジェクトに取り組んでいます。そこではコーチ教育プログラムなどに関わっており、南アフリカ、ナミビア、ボツワナ、ザンビアなどの地域とも連携して、そのなかで成功事例などを共有して、スポーツをよりよいものにしていきたいと考えています。

[ここからはグアテマラ、ブラジル、ルワンダのコラボレーション事例の概要紹介]

【グアテマラ (ファン・ディエゴ、ペドロ・ダニーロ)】

こんにちはファン・ディエゴです。現在は NCDA の第 7 期に参加しています。実は、NIFISA にも応募して受け入れられ、日本に行くことになっていたのですが、新型コロナの影響で日本に行くことができませんでした。私は日本の文化に出会えることを楽しみにしていたので、残念な気持ちがあります。NCDA にはダニーロとともに応募しました。ダニーロは TIAS の修了生です。[通信が途絶える]

こんにちはファン・ディエゴの通信環境が悪くなってしまったみたいですね。代わりに私がお話します。私はグアテマラ出身のペドロ・ダニーロです。TIAS の第三期修了生で、NCDA の第 7 期受講生です。グアテマラ自治スポーツ連盟で働いており、グアテマラでは大学で研究もしています。現在グアテマラでは、グアテマラオリンピック委員会や自治スポーツ連盟や NCDA とともに協力して事業を進めており、現在実施されているコーチ育成システムを改善することを目指しています。価値やライフスキルや文化的側面も含んだプログラムにしたいと思っています。ブレイクアウトルームではその詳細についてお伝えしたいと思います。

【ブラジル (タチアナ・フレイレ)】

こんにちはタチアナです。NCDA と TIAS の修了生である私たちがブラジルで開催したワークショップの概要をお伝えしたいと思います。何より、スポーツ庁、SFT、日本体育大学など、関係者の皆さまに感謝いたします。

まずこちらのコーチ育成の事情をお伝えしますと、ブラジルではコーチになるために高等教育を受けなければなりません。コーチは大学などで教育を受けることになっています。

ブラジルには NCDA の修了生が 9 人いて、そのうちでも今日のウェビナーに参加しているのは、ラリッサ、パウラ、マリアナ、タシアナ、私です。みんなで協力して、2020 年 3 月にサンパウロで「NCDA ブラジルコーチ育成ワークショップ」を開催しました。そこには、スポーツ連盟、スポーツクラブ、複数スポーツ団体、ブラジルパラリンピック委員会、ブラジルオリンピック委員会、NGO などから 27 名の参加者があり、またオブザーバーとして 10 名の修士課程・博士課程の学生が参加しました。日本からは伊藤雅充教授がオンラインで参加してくださいました。12 時間の時差があるなかでも参加していただいたことに、心より感謝いたします。そのワークショップで目指したのは、コーチングシステムのなかでのコーチデベロッパーの役割を明確すること、コーチ育成における参加者の役割や仕事を説明すること、コーチ育成に役立つツールを持ち帰ること、学びにおいて重要な要素を説明すること、実践の共同体を使ってコーチ育成における卓越性を追求するようにモチベーションを高めることなものでした。そこで私たちは入門的な内容を選んで、1 日目はコーチデベロッパーへの導入、マイクロコーチング、GROW モデル、組織と人々の役割などを扱い、2 日目は GROW や GRIP などを使って振り返りをして、ケーススタディについて学び、ワークショップ全体の振り返りを行いました。ここで、ワークショップの様子がわかるビデオをご紹介します。それを見るとわかると思いますが、会場のレイアウトは柔軟性を持ったもので、グループディスカッションや振り返りを用いました。他にも、ICCE 会長のジョン・ベールズさんにはオンラインでグローバルな視点についてもお話してもらい、カナダにいるパウラにも参加してもらいました。この後のブレイクアウトルームでは、将来の構想や私たちが学んだことを共有することにいたします。

### 【ルワンダ（シーマ）】

皆さんこんにちは。友人のセレスティンが参加できずに、申し訳ないです。ここでは私のほうから、NCDA と TIAS のプログラムで経験したことを共有したいと思います。私たちにとって日本ではとてもよい学びがありました。その経験を活かして、現在私はスポーツ省で事務局長を務めています。皆さんにルワンダのことにしてお伝えできるのを嬉しく思います。こちらでは TIAS の方々と交流する機会がありました。また、地元のコーチたちにルワンダのコーチデベロッパープログラムを開催することができました。その後も、コーチと個人のセッションを開催したりしましたが、やはり簡単なことではありませんでした。それでも、興味を持っている方々とこれからも一緒に活動をしていきたいと思っています。新型コロナの影響を受けている状態ですが、さらにつながりを強くしたいと考えています。アフリカにはまだあまりコーチデベロッパーがおりませんので、これは新しいプログラムになります。また、コーチのプラットフォームを作る機会にもなるでしょう。

## ブレイクアウトルームの各部屋のまとめ（各 20 分）

### 【グアテマラ】

- ・グアテマラの基本情報の紹介
- ・NCDA プログラムの受講が決定してからのこれまでの流れ
- ・グアテマラでスポーツのシステムがどのように機能しているか
- ・ナショナルスポーツアカデミーのこれまでの歩み及び現在の状態
- ・スポーツの法的な位置づけ
- ・コーチ教育のカリキュラム紹介
- ・コーチ育成のためのカリキュラム紹介
- ・現在抱えている課題や問題の共有
- ・これからの取組みで期待されること
- ・今後のコーチデベロッパー育成の展望

(NCDA と ICCE の提案する方法論を活用して、地元の大学とパートナーシップを結んで、パイロットプロジェクトを作成し、コーチデベロッパーのための入門トレーニングコースを作り出す)

- ・グアテマラにおけるコーチデベロッパー育成の概略とその大まかなプロセスの提示

参加者からの質問「参加者はどのようにして選んでいるのか？」

- ・基準には3つあり、(1) スポーツや体育に関連する学士号を持っていること、(2) 異なるさまざまなことに挑戦する意欲を持っている人、(3) グアテマラでスポーツに関する育成に関わっている組織に属していること、などがある。

参加者からの質問「誰でもコーチデベロッパーになれるのか？」

- ・多くの人がコーチデベロッパーへの学びを深めることができるように、私たちは NCDA の教材をスペイン語に翻訳して、グアテマラの多くの人たちに使ってもらえるように作業を進めている。あと、物事を変えようという意欲を持っていることも重要だと考えている。NCDA はまさに、そうしたチャレンジ精神を

持っている。

#### 【ブラジル】

- ・ワークショップの参加者からの声（感想）を共有
- ・参加者が感じたよかった学びとして、これまでの経験の共有やクエストニングや振り返りが挙げられ、アクティブ・ラーニングやラーナーセンタードなアプローチも評価を受けた。
- ・他によかった点として、GROW や GRIP といった振り返りの方法、マイクロコーチング、意見の共有、コミュニティのなかで活動することなどが挙げられた。
- ・運営の側として改善できる点としては、ディスカッションの時間を増やす、母国語（ポルトガル語）で開催する、参加者のバックグラウンドをもっと活用するなどが意見として寄せられた。
- ・ワークショップが与えた影響としては、スポーツシステムのうちにいるステークホルダーたちに経路を開くことができた点、コーチデベロッパーが重要な領域だと認識してもらえた点、個人の関係から組織の関係への移行することなどが挙げられる。
- ・ワークショップ後の影響としてはさらに、ブラジル卓球連盟とカンピーナス州立大学で協定を結ぶことになり、新たなプロジェクトが立ち上がった。NCDA 第3期のラリッサ・ギャラッティ氏とタイサ・ベリー氏で、卓球のコーチ育成プロジェクトを作成している。
- ・また、ブラジル・ハンドボール・デベロップメント・センターでも動きがあった。そのなかでは、国内ハンドボールのさまざまなレベルのコーチ育成プログラムが開催されたが、そのうちの一人が NCDA ブラジルワークショップの参加者だった。また、NCDA 第6期のタシアナ・フレイレ氏が作業部会に参加することになった。また、レベル 1&2 のコースが翌月に開催されることになった。
- ・将来的には、2020 年 11 月にカンピーナス州立大学が「コーチの能力向上」オンラインコースの第一弾をオープンすること、国内協会を含むコーチ育成を担う組織と大学間でのつながりをよりいっそう意識し、強化すること、ブラジルのコーチデベロッパーコミュニティをよりいっそう強固なものとして、ブラジルワークショップの参加者にフォローアップを行い、参加者間での協力体制を作るなどが目標となる。

参加者からの質問「ブラジルでプログラムを展開したいのだが、どうすればよいか」

- ・これからわれわれもワークショップをさらに展開していく予定なので、一緒に活動していくことができる

参加者からの質問「コーチデベロッパープログラムの内容についてはどのようにして選択しているのか？」

- ・自分たちはまず、自分たちの状況（コンテキスト）の特徴をしっかりと把握して、理解することだと思う。そこから、色々なことが見えてくる。また、出てきた結果に対して、しっかりと振り返りをして、どうすべきかを考えていくことです。

#### 【ルワンダ】

- ・ジンバブエの障がい者スポーツの状況の共有
- ・そこには資金不足などが大きな問題としてある
- ・さまざまなスポーツ協会がどのような取り組みをしているのか、またそのつながりを共有
- ・どのようにしてスポーツ協会はスポンサーなどから資金を確保することができるのか

- ・ルワンダにおけるコーチデベロッパー育成やコーチ育成の状況の共有
- ・バレーボールのコーチがシッティングバレーボールのコーチへの展開
- ・コーチ資格の現在の状況の共有

## まとめ

### 【伊藤雅充教授】

今日はプレゼンテーションを発表していただき、ありがとうございます。なかなかこの短い時間では詳細について話すのは難しかったと思いますが、これがきっかけとなって新しいコラボレーションがさらに生まれることを願っています。それがこのウェビナーの目的でもあります。グレン・クンダリ氏がいったように、つながりは非常に重要ですので、NCDAとしてもみなさんがつながることをお助けできればと思います。ペレ、何かありますか？

### 【ペレ・クヴァルスンド (NCDA 第3期受講生)】

話す機会をありがとうございます。ともに能力を向上させることができる大きなネットワークができていくのがわかります。NCDA のさまざまな世代だけでなく、それぞれの組織を超えたつながりがあるのはすごいことです。他の人たちがどのようなことを知っていることは重要だと思います。これまで、ザンビアを含めた3カ国から28名が参加して、3回のコーチデベロッパープログラムを開催しましたが、その修了生が後に一緒に活動することもあります。なので、これからもぜひ一緒に活動していきましょう。

### 【ジョン・ベールズ (ICCE 会長)】

こうした世界中のさまざまな育成事例を見ることができて、とても嬉しく思います。伊藤教授がNCDAで何年間もやってきたことの目標につながっていると感じます。ICCEの観点からすれば、途上国でのプログラムの実施や、どのようなことが必要とされているのか、コーチ育成をどのように改善していくのかなど、途上国でさらに調査したいと思っています。この機会がそうした未来の取り組みのきっかけになることを願っております。皆さまのご参加、ありがとうございます。

### 【伊藤雅充教授】

ベールズさん、ありがとうございます。委託事業は年度末に終了することになりますが、私たちの取り組みはこれからも続いていきます。それが私たちからお伝えしたいことです。それでは、本日はご参加いただき、誠にありがとうございます。それでは、またお会いできることを楽しみにしております。